

「上質」なインテリアと暮らし

別冊PLUS 1 LIVING [ボンシック]

# BonChic

VOL.15

眺めのいい  
アフタヌーンティーPLACE  
アンティークショップ  
オーナーが教える寝室づくり  
リノベーションで  
エレガントな住まいに

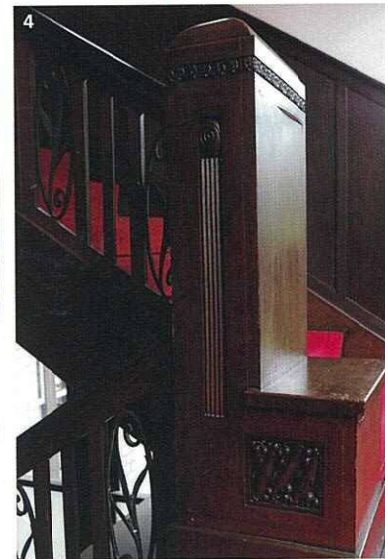
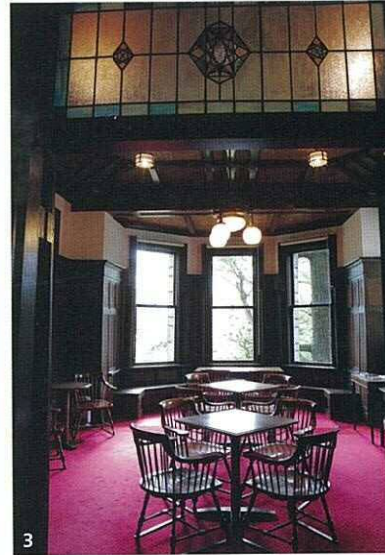
石澤季里さんが訪ねる  
日本の迎賓館

初夏の訪れに心はずんで

エレガンスに囲まれた  
洗練インテリア



1 玄関ホール。笠にS字柄が施された三つ巴照明は、金属素材や吊り具の直線がモダニズム的デザイン。扉枠の上部には、円柱に花網のコンビのレリーフがあしらわれています。2 植物をデザイン化したステンドグラスが用いられた照明。



## レストラン

3 当時から待合室に使われた玄関横の部屋。台形に床ごと張り出した窓はヴィクトリアン様式。宝石のカットを彷彿させる絵柄のステンドグラスが各室の欄間に見られます。4 階段の手すりには「平穩」の意のスズランの、親柱には渦や溝を切った円柱の、下部には「子孫繁栄」の意の樫の木の葉と実の彫刻が。5 当時の応接室はレストラン「ル・アン」に。和の網代のような天井と、直線的なデザインの照明や縦長窓、柱が印象的です。

人の技巧の高さがうかがえます。

この邸宅の室内装飾にも、そうした意匠が見てとれます。西尾氏がよく仕事で行き来したというニューヨークではアール・デコ様式がはやり始めており、最先端のスタイルを持ち帰ってきたのでしょう。なかでもステンドグラスや照明の意匠は相当凝ったもので、西尾氏のセンスのよさと港町・神戸の職人の技巧の高さがうかがえます。

設計は、初代通天閣を手がけた、建築家・設楽貞雄。大正時代、洋風建築の流行はクリムトなどが活躍したウィーン分離派のセセッション様式でした。古典的で甘美な様式から抜け出し、幾何学や渦の模様などを用いて、アール・ヌーヴォーよりシムメトリー、アール・デコより有機的なの特徴です。

設計は、初代通天閣を手がけた、建築家・設楽貞雄。大正時代、洋風建築の流行はクリムトなどが活躍したウィーン分離派のセセッション様式でした。古典的で甘美な様式から抜け出し、幾何学や渦の模様などを用いて、アール・ヌーヴォーよりシムメトリー、アール・デコより有機的なの特徴です。

## 須

磨海岸を見下ろす小高い丘に1919(大正8)年、神戸の貿易商・西尾類蔵の邸宅が建てられました。当時は

大正時代に  
社交界の華と  
称された貿易商の豪邸  
**神戸迎賓館**  
旧西尾邸

Spot-4

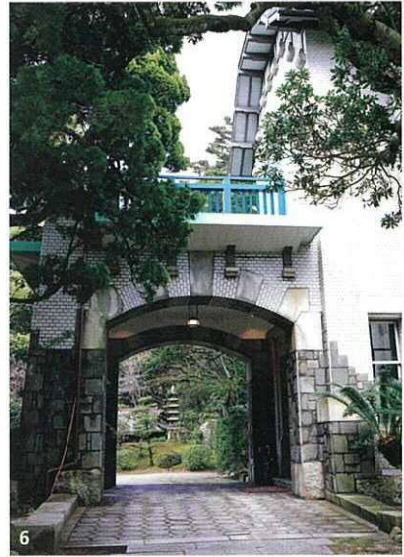




## VIPルーム

配膳台のような棚があり、当時の食堂らしき部屋。ジオメトリックなバラに円柱を合わせたステンドグラスや、風格がにじむモザイクの寄せ木張りの床板が印象的。

時代を先取りしたスタイリッシュなアール・デコが秀逸です



6.7 ランダムな石板や網代張りのタイルなど、曲線と直線をシンメトリーに対比させた造りが、セセッション様式らしい外観。全体に直線的ながら、切り妻のような屋根など、ヴィクトリアン様式も見られます。



8 須磨海岸を見下ろす立地にふさわしい、かもめと雲、海を描いたさわやかなステンドグラス。当時の須磨は、武庫離宮(現・須磨離宮公園)の造園や鉄道の開通などで、別荘地としてもはやされたそう。9 天井の四隅に設けられた通気口部分。菱形を中心に、左右対称にバラのつぼみが並んだ、当時らしいデザインが見てとれます。

### 神戸迎賓館 旧西尾邸

兵庫県神戸市須磨区離宮西町2-4-1

☎ 078-739-7600 (レストラン)

営業時間：11時30分～14時L.O.、

17時30分～21時L.O. (レストラン)

定休日：火曜

[www.vizcaya.jp/](http://www.vizcaya.jp/)